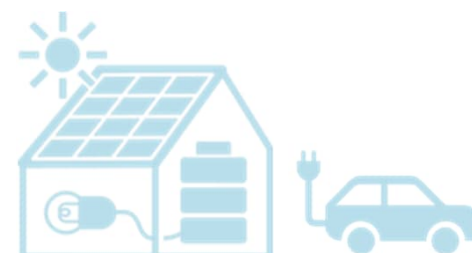


ゼロカーボンシティ実現に向けた 鉾子市のこれまでの経緯と ビジョンの基本方針

2024年10月31日



「ゼロカーボンシティ銚子」実現に向けた銚子市の取組

● ゼロカーボンシティ実現に向けた銚子市のこれまでの経緯

I ▶ 平成31年3月

「地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」策定

II ▶ 令和3年2月

「ゼロカーボンシティ銚子」表明

III ▶ 令和3年10月

「地球温暖化対策計画」閣議決定

IV ▶ 令和5年3月

「銚子市ゼロカーボンビジョン」策定

現行ゼロカーボンビジョン策定の背景・目的

現行ビジョン策定の背景・目的

地球温暖化は、人間の生活や自然の生態系に様々な影響を与えています。国内においても、平均気温の上昇、大雨、台風などの自然災害の甚大化、農作物や生態系への影響などが観測されており、将来的にさらなる深刻な影響が生じることが懸念されています。

地球規模の課題である気候変動*問題の解決に向け、平均気温の上昇を産業革命以前と比較して1.5℃に抑えようという世界目標が掲げられていますが、すでに約1.1℃も上昇しており、より一層の対策が求められています。

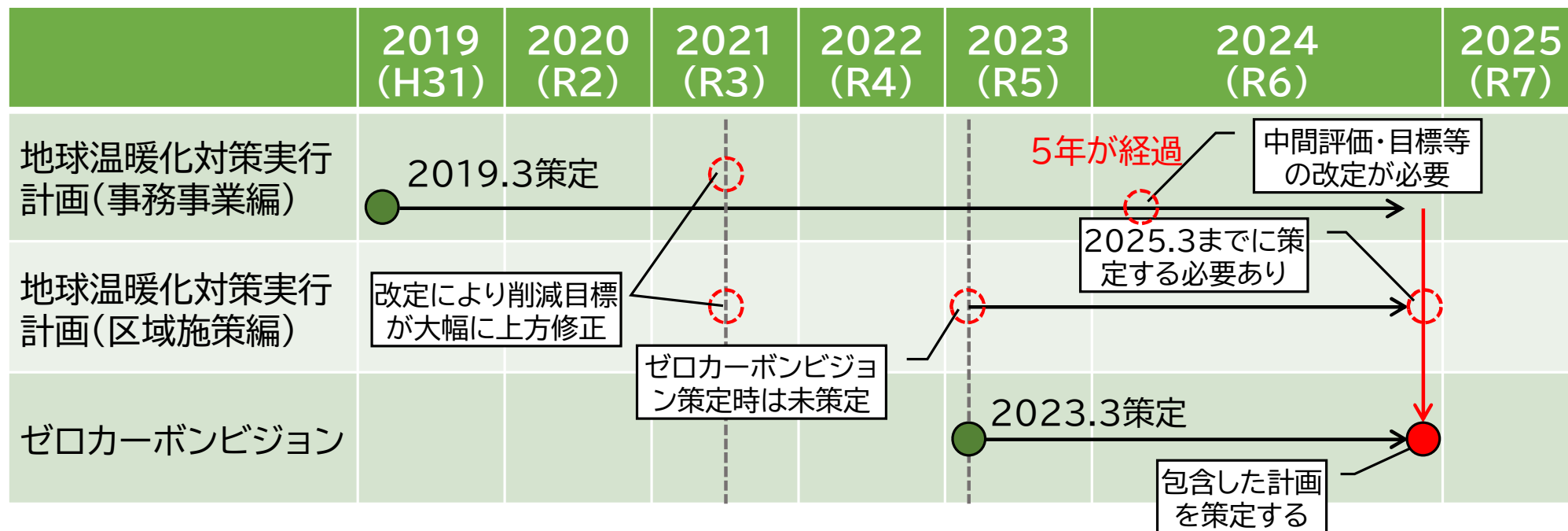
世界目標達成のためには、地球温暖化の原因となっている温室効果ガスの排出を2050年頃までに実質ゼロにする必要があると言われています。そのため国は、2030年度に2013年度比で46%削減し、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラル(ゼロカーボン)を目標に掲げています。

銚子市においても、自然豊かな環境を未来につなげるため、2050年までにCO₂などの温室効果ガス排出量の実質ゼロに向けて取り組むことを表明し、「ゼロカーボンシティ銚子」の実現に向け、目指す銚子市の姿を示すとともに、そこに至る道筋を描くため、ゼロカーボンビジョンを策定しました。

現行ゼロカーボンビジョンより

今回のゼロカーボンビジョン改定の経緯

- 事務事業編の策定(H31.3)から5年が経過し、中間評価が必要となっている。
- 事務事業編の策定以降に国の「地球温暖化対策計画」が改定(R3.10)され、温室効果ガス排出量の削減目標が更新されており、目標や計画の見直しを行う必要がある。
- 現行のゼロカーボンビジョン(R5.3)では、「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」の一部要素は未策定であり、これらをR6年度中に組み込む必要がある。



- 今回のゼロカーボンビジョンの改定では、地球温暖化対策実行計画の事務事業編と区域施策編を包含した計画とする。

ゼロカーボンビジョン推進の基本方針

～ 豊かな自然環境を活かし、持続可能な銚子を未来につなぐ ～

銚子市は、三方を水に囲まれ、利根川河口から君ヶ浜、犬吠埼、屏風ヶ浦に至る海岸線は、砂浜あり、岬あり、断崖絶壁ありと、変化に富んだ雄大な景観美を織りなしています。

また、日本一の水揚げ量を誇る銚子漁港、「夏涼しく、冬暖かい」気候を活かした農業、歴史と伝統を実感できる醤油工場に加え、これらの産業基盤から産出される豊富で新鮮な食材や特産品など、多くの地域資源に恵まれた魅力あふれるまちです。

さらに、太陽光発電・風力発電など再生可能エネルギー*の適地として知られ、2028年には、銚子市沖で洋上風力発電の稼働も予定されています。

本市では、豊かな自然からつくられる「美しい景観」・「安心で安全な食」・「地産エネルギー」といった銚子の魅力を未来世代につなぐため、オール銚子でゼロカーボンシティの実現を目指します。



2050年の銚子市の姿(イメージ)



ゼロカーボン実現に向けて

銚子市の課題

災害レジリエンス*
の強化

社会・環境の
変化への対応

地域経済の
活性化

観光や賑わいの
増加

将来世代の
確保・育成

課題を解決し、未来につなぐための取組

再エネで経済をプラスにする
災害に強くする

エネルギーを低コストで効率よく使う

脱炭素*できれいな空気と安心を保つ

洋上風力と連携して銚子創生を実現する

オール銚子で未来につなぐ

ゼロカーボンシティ

くらす

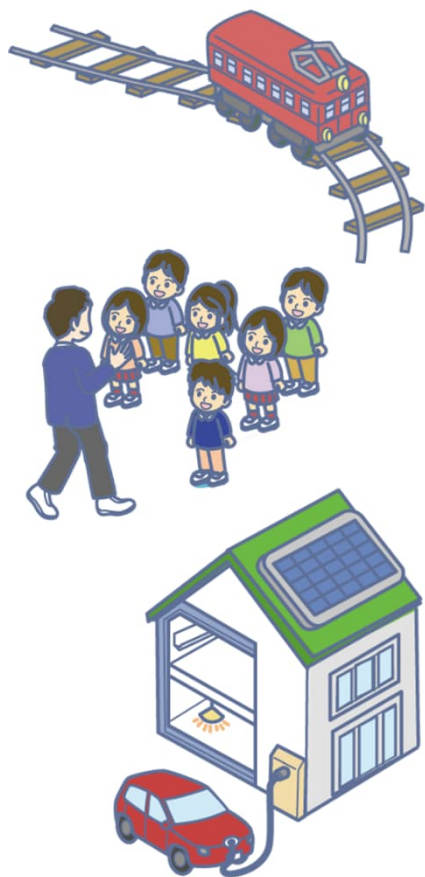
はたらく

あつまる

くらす

「おだやかな気候」・「安心」・「低コスト」

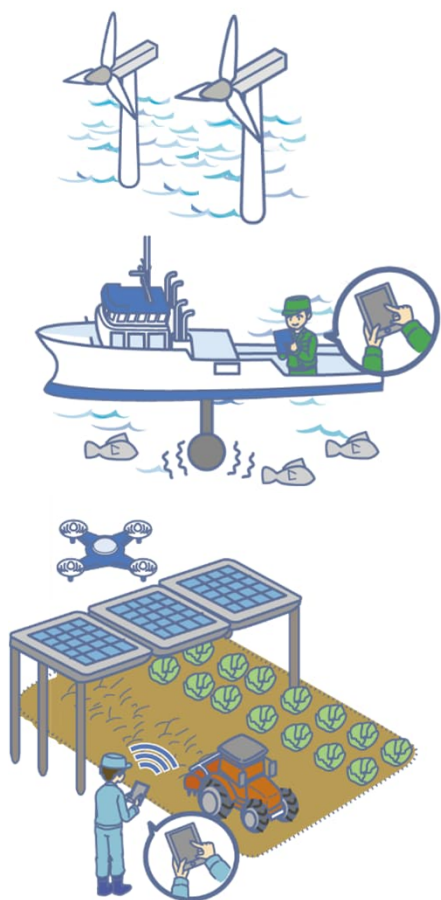
- 銚子の気候を活かした住宅で、太陽光や風力で発電された電気を使って快適に暮らしている
- 子どもたちが環境についての理解を深め、再エネのある暮らしを誇らしく感じている
- 低炭素公共交通システムやEVカーシェアリングなどで、快適に移動できている
- エネルギーは見える化され、自動で最適化されている
- 災害時にも利用可能なエネルギーが確保されている
- 市内の緑地や海が環境が保全されている



はたらく

「伝統」・「地域循環」・「銚子ブランド」

- 地産地消の再エネ電力でつくられた「銚子産」に価値がついている
- エネルギーが市内で循環し、光熱費を抑えながら産業が成長している
- デジタル技術の活用により海の状況がリアルタイムに把握でき、安定した漁獲量が得られている
- AI(人工知能)やロボットを活用したスマート農業により、従業員の身体的負担が軽減され、経営の安定・効率化が図られている
- 洋上風力発電が地域に活力を与えており、地域共生型再エネ事業「銚子モデル」を発信している
- 再エネを活用したグリーン水素やゼロカーボン燃料が地域で利用されている

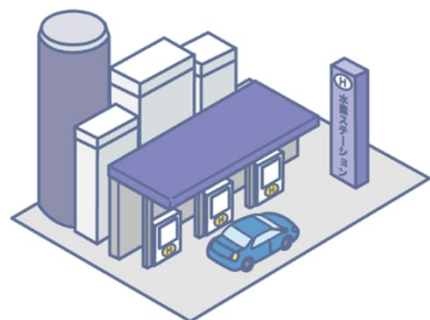


あつまる

「豊かな自然」・「新鮮な食」・「再エネのまち」



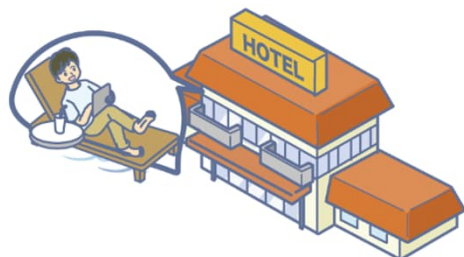
- 銚子でしか食べられない、新鮮でおいしい食を求めて人が集まっている



- 温泉や景勝地の魅力に加え、洋上風力発電の先進地として知られており、視察や観光に多くの人が訪れている

- 再エネを活用した水素ステーションや充電スポットが市内に整備され、CO2排出ゼロのバスや自動車が走っている

- 美味しい食、豊かな自然、クリーンなエネルギーを魅力に移住・定住・ワーケーションが増えている



- 他地域との往来や連携が増え、関係人口が増加している